

小・中学校国語研究部

I 研究主題

聴き合い・学び合い・深め合い

—物語文を中心とした「読むこと」における指導の工夫—

II 主題設定の理由

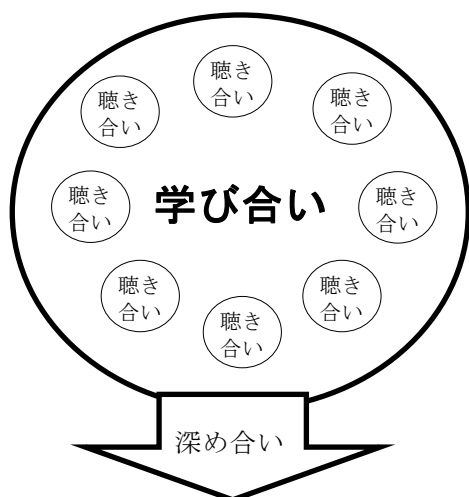
現行の学習指導要領では、「生きる力の育成を目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、言語活動を充実すること」としている。特に国語科においては言語活動の根幹を成す教科であるため、例えば「単元を貫く言語活動」等、従来の授業展開から、さらに発展した新たな指導法の工夫が求められている。

本研究部では、研究員の基本テーマにある「主体的に学習に取り組む」ためにはどうすればよいかについて話し合った。日々の国語科の授業実践において、教師が主体的に学習に取り組むことができていないと感じる児童生徒の課題について以下の点が挙げられた。

- ・ 物語文を扱う学習において、主題や登場人物の気持ちを深く読み取ることが苦手である。
- ・ 正解が明確な発問については自信をもてるが、自分の意見や考えを発表することについて抵抗を感じている児童生徒が多い。
- ・ 答えを間違ふことのおそれから、進んで自分の意見を言うことができない。

以上の点を解決するために、本研究部が考えた仮説は以下の通りである。

問題解決型学習において、問題解決のための「聴き合い」の方法を適切に指導すれば、児童生徒同士による「聴き合い」を通じた「学び合い」が行われ、読み取りの「深め合い」が起これ、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるであろう。



※「聴き合い」「学び合い」「深め合い」のモデル図

○本研究部では聴き合い、学び合いを以下のように定義した。

聴き合い…隣同士や小グループ等の少人数のスタイルで、互いの考えを聴き合いながら、課題に対して児童生徒自身で解決していくとする活動。

学び合い…児童生徒が授業の中で自分の考えをもち、それを発表したり友達の考えを聞いたりしながら、考えを深めたり広げたりすることのできる活動。

「学び合い」の中で出た意見や考えを、さらに異なった視点や論点で考えることで深め合い、新たな価値に気づき、より質の高い学びに発展することができる。

授業の中で「聴き合い」を取り入れることにより、児童生徒同士の「学び合い」が必然的に生まれる。「課題の解決方法が分からなければ、隣の子に聴いてみよう」という関係性が生まれるため、「学び合い」に繋げることができる。さらに、児童生徒一人一人が自分の意見や考えをもつことができるようになれば、授業もより活性化され「深め合い」

に繋げていくこともできる。結果として、前述の児童生徒への課題点も解決できるであろうと考え、本研究主題を設定した。

また、主体的な「聴き合い」を目指すためには、児童生徒が「考えたい」、「考えなくてはならない」と思えるような、魅力ある言語活動を設定する必要があるとも考える。

III 研究の内容

1 研究の方向性

主題設定の理由で述べたとおり、本研究部では主体的に学習に取り組む児童生徒を育成するためには、「聴き合い」が大切であり、「学び合い」「深め合い」にも繋げていくことができるという仮説を立てた。この仮説では、「読む」活動において、いかに「聴き合い」を効果的に学習計画に取り入れていくかが重要になってくる。そのために、本研究部では研究の方向性を次のように考えた。

- (1) 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を効果的に取り入れるための問題解決型学習における単元計画の作成

教師主体による一斉指導型の授業展開であると、児童生徒主体の「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を取り入れることが困難になるため、問題解決型学習の単元計画を作成し、児童生徒主体での授業を行う。

- (2) 児童生徒の学習意欲を喚起するための、適切な単元を貫く言語活動の設定

(1)の問題解決型学習を取り入れるためには、児童生徒主体の学びが必要になる。そのために適切な単元を貫く言語活動を設定することで、1時間ごとのめあても明確になり、問題解決型学習に特化した指導計画が作成できると考える。

- (3) 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を効果的に行うための指導法の工夫

「聴き合い」「学び合い」「深め合い」の進め方を児童生徒に指導していく必要がある。そのためには、「聴き合い」の約束などを作ることにより、初めて「聴き合い」を行う児童生徒に対しても、スムーズに活動が行われるように配慮していく。

《本研究における基本的な指導計画》

第一次	○単元を貫く言語活動の提示 (例：紹介したい物語文のリーフレットを作ろう) ・言語活動の見通しをもつ	並行読書
第二次	○言語活動を行うための教材文の読み取り (例・あらすじ ・登場人物の心情描写 ・心に残った場面など)	
第三次	○学習したことをもとに活用する (例：紹介したい本のリーフレットの作成、発表、紹介)	

「聴き合い」「学び合い」
「深め合い」を取り入れ
た問題解決型学習

2 研究の経緯

本研究では、まず9月に先行授業を行い、その反省をもとに、10月、11月と授業実践を行った。また、児童の変容を捉えるために事前、事後のアンケートを取り、それを検証した。また、1月以降、2度の授業実践を計画している。

IV 実践例

1 小学校第4学年の事例（教材名「ごんぎつね」）

(1) 研究主題との関わり

- ① 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を効果的に学習計画に取り入れるための問題解決型学習における単元計画の作成

本単元では、以下のような問題解決型学習の流れを設定しておくことで、児童がスムーズに学習に取り組めるのではないかと考えた。

《問題解決型学習の流れ》

1	課題をワークシートに書く
2	課題解決のための予想を立てる
3	範囲を音読
4	解決の見通しをもつ ・登場人物の視点・人物の関連づけ ・情景描写 ・前場面までの関係づけ
5	一人読み（一人学び）
6	グループ読み（グループ学び）
7	全体読み（全体学び）
8	まとめ（課題の答え）
9	本時の感想を書く

「聴き合い」「学び合い」「深め合い」

- ② 児童生徒の学習意欲を喚起するための、適切な単元を貫く言語活動の設定

本単元では、学習指導要領「C 読むこと」における指導事項「ウ」「オ」、言語活動例「ア」「エ」「オ」を受けて、次のような言語活動を設定した。

「紹介したい本のリーフレットを作ろう」

初めに、「ごんぎつね」の物語の読み取りを行い、リーフレットを作成する。その後、自分の読んでいる本の中から、紹介したい本を選び、リーフレットを作成するという活動である。リーフレットに書く内容としては、あらすじ、人物紹介、好きな場面、物語紹介、感想などが挙げられるが、主体的に児童に取り組ませるため、書く内容を児童と教師と一緒に考えていくことが重要になってくる。リーフレットに書く内容が決まったら、それをもとに、読み取りの学習計画を作成していく。このような手順を踏むことで、児童が「学習したい」という意欲をもつことができる。

- ③ 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を効果的に行うための指導法の工夫

児童自身が主体的に問題解決をできるように、1時間の展開の中に、「聴き合い」の時間を設け、その時間は自由に隣や前後の児童同士がお互いの考えを聴き合うことのできるようにする。また、その後は小グループを編成し、考えた意見を交流することで「学び合い」活動を行い、最後に全体で発表し「深め合い」ができるように授業展開を考えた。

(2) 本時の学習指導

- ① 目標
登場人物の気持ちを読み取り、学習課題を解決することができる。
- ② 評価規準
会話や心情表現、行動から人物の性格や気持ちを読み取っている。

③ 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1 前時の学習を想起する。		・前場面までの「ごん」の気持ちを想起させる。
2 本時の学習課題をつかむ。	兵十に打たれた時、「ごん」はどんな気持ちだったでしょうか。	
3 学習の流れを確認する。		
4 解決の見通しをもつ。	○解決の見通しの持ち方 ・登場人物の視点 ・人物の関連付け ・前場面までの関係付け	
5 範囲を音読し、個々に問題解決型学習に取り組む。 (聴き合い)	○音読の仕方 「教え合い」にならないために、他者への声掛けの仕方を注意する必要がある。	・自分の聞こえる声の大きさと、自分にあつた速さで読ませるとともに、「ごん」の気持ちを考えながら読むように助言する。 ・兵十、「ごん」の視点や、両者の関係、前場面までの「ごん」の兵十に対する行動から考えていくようにする。 ・初めの6分間程度は、自力解決させ、その後、「聴き合い」を取り入れていくようにする。 ・「聴き合い」では答えを教えるのではなく、アドバイスや説明をするよう留意する。
	○「聴き合い」の仕方 ・自力解決が難しい場合、近くの子にアドバイスやヒントをもらいに行く。 ・解決している児童が教えるのではなく、解決できていない児童が聴きに行く。 ・聴かれた児童は、一緒に考え、アドバイスをしなくてはならない。	
6 グループごとに話し合い意見をまとめる。(学び合い)		評価場面 (具体の評価規準) エの② (評価方法) ワークシートの記述 ・「ごん」の気持ちが読み取れていない児童には、前場面までの「ごん」の気持ちを想起させ、その後「ぐったりと目をつぶったままうなずきました。」という叙述に着目させ、「ごん」の気持ちを考えさせる。 ・「めあて」が十分に達成されている児童には、読み取れたことを称賛し、まとめを50字以内で収まるようにし、内容の見直しと表記の仕方を工夫させる。 ・友達の見解から、自分の考えと同じところや違うところを比較して聞けるようにする。 ・異なった複数の意見が出た場合は、根拠となる叙述が示されていれば、両方の意見をグループの見解として認めていくようにする。 ・気がついていない叙述があつた場合は、ワークシートに書くように声かけをする。 ・まとめに必要なキーワードや叙述を提示する。
	○「学び合い」の仕方 ・小グループの作成 ・初めに、一人ずつ考えを述べる。 ・次に、出た意見や考えの中から、意見を組み合わせたり、新たな考えを付け加えたりしながら、話し合いを深めていく。	
7 全体で意見をまとめる。	○意見のまとめ方	
8 本時のまとめを書く。	○まとめの書き方	
9 次時の予告を聞く。		

(3) 成果と課題

① 成果

- ・ 問題解決の場面で、「聴き合い」の活動を取り入れたことにより、読み取りの苦手な児童でもお互いに聴き合ったり、教科書の叙述に着目したりしようとしているなど、意欲的に学習に取り組もうとしている態度が見られようになった。

② 課題

- ・ 「聴き合い」の活動が、「教え合い」の活動になってしまい、答えをただ聞くだけの児童が多かった。また、他者への声のかけ方が分からない児童もいた。
- ・ 「学び合い」のさせ方、「声のかけ方」を適切に行うことができなかった。また、聴きたくても周りの児童も分からず、どうしてよいか戸惑うグループも見られた。適切な課題設定も重要である。

2 小学校第6学年の事例（教材名「やまなし」）

(1) 研究主題との関わり

- ① 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を効果的に学習計画に取り入れるための問題解決型学習における単元計画の作成

《問題解決型学習の流れ》

第1次	第2次	第3次
<ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治作品のブックトークを聞く。 教師作成の本のフリップボードによる作品の推薦を聞く。 単元の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治のもの見方や考え方を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やまなし」を読み、五月と十二月の違い、情景や作者の思い等を考えることによって、作品の読み方を学ぶ。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">「聴き合い」「学び合い」「深め合い」</div>		
<ul style="list-style-type: none"> 「やまなし」のフリップボードを作成する。 		
<p>単元を貫く言語活動を意識しながら、自分の表現したい思いを膨らませる</p>		

- ② 児童生徒の学習意欲を喚起するための、適切な単元を貫く言語活動の設定

本単元では、学習指導要領「C 読むこと」における指導事項「イ」「エ」、言語活動例「エ」を受けて、次のような言語活動を設定した。

「宮沢賢治の作品を推薦するフリップボードを作ろう」

これは、宮沢賢治の多くの作品の中からお気に入りの作品を選び、読んだことのない人にその作品の魅力伝えるためのフリップボードを作成するというものである。

- ③ 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を効果的に行うための指導法の工夫

小学校4年で行った提案授業では、進行方法が分からないために学び合いが進まないグループがあった。そこで、本実践では以下の点を重点に指導していこうと考えた。

- 「学び合い」で使われる聴き方のフレーズを掲示する。
- 十分に自分の意見をまとめる時間を作り、「学び合い」に繋げていく。

(2) 本時の学習指導（第6／11時）

- ① 目標

五月の場面と十二月の場面を比べ、その違いについて読み取ることができる。

- ② 評価規準

- 登場人物の相互関係や心情、場面についての優れた叙述に着目し、その作品を推薦するために、自分の考えを（的確に）まとめている。
- 考えを交流し、自分と他の児童の感じ方や考え方との共通点や相違点を明らかにして（自分の考えを広げたり深めたりして）いる。

- ③ 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1 本時の学習課題をつかむ。	○本時の学習の進め方	・前時の学習を振り返らせ、本時の学習の見通しをつかめるようにする。
五月と十二月を比べて、考えたことを交流しよう		
2 五月と十二月の場面を比べる。	○2つの場面を比べること	<ul style="list-style-type: none"> 五月と十二月の学習で使用したプリントを使い、対比させる。対比する観点（以下参照）を明らかにしたうえで、考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>＜対比の観点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 時 ・ 色 ・ かにの様子、会話 ・ 水の中の様子 水に飛び込んできたもの、その様子 飛び込んできたものがもたらしたもの </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 対比の活動を減らし、「聴き合い」の時間を長くすればよかった。 </div>		

<p>3 五月と十二月の場面をそれぞれ、一言で表す。</p> <p>4 考えを交流させる。</p>	<p>○場面を一言で表すこと</p> <p>○交流の仕方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に考えさせた後、全体で確認する。その際、考えていなかった考えは書き加えるよう助言する。 それぞれどのような世界なのか、また、そのように考えた理由も書くように指示する。
<p>○「学び合い」の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と違う 似ているけど言葉が違う どうしてそう思うのか 以下のフレーズを使って聴き合い、自分の考えを深める。 どう考えても、どういうことか分からないんだけど・・・ この考え方っておかしい？ どうしてこうなるの？ ここをどう考えたの？ もう少し詳しく教えて 		<p>「学び合い」が進まないグループへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えを発表する際は、考えを書いたワークシートを見せながら発表させることで、分かりやすく伝えられるようにする。 考えを聞く際は、自分と他の児童との感じ方や考え方を比べて、共通点や相違点を明らかにしながら聞くように助言する。 誰のどのような意見が印象に残っているか、それによって、自分の考えがどうなったのかを意識して交流するようにさせる。 誰のどのような意見が印象に残っているか、それと自分の考えとの共通点や相違点について書くように指示する。 フレーズの掲示を参考にして、自分とは違う意見の児童に理由を聞くよう促す。
<p>○予想される児童の反応</p> <p>A: どうして十二月は「明るい世界」にしたの？ 夜の話だよ。</p> <p>B: たしかに十二月は夜の話だけど、月明かりがあるし、兄弟が遊んでいる場面や、やまなしの香りの場面を読むと、安心を感じられて明るい世界だと思ったんだ。</p> <p>なんで A は十二月が「楽しい世界」にしたの？ 以下続いていく。</p>		<p>評価場面 2 (学習活動に即した評価規準) エの③ (評価方法) ワークシートの記述内容の考察、発表の様子や態度の観察 (手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分に書けている児童には、自分の考えの広がり、深まりについても書くよう助言する。 なかなか書けない児童には、印象に残っている他の児童の考えを思い起こさせ、それについて書くよう助言する。
<p>5 自分のフリップボードの「五月と十二月を比べて」の項目を書く。</p> <p>6 学習を振り返る。</p>	<p>○場面对比して、読み取ること</p> <p>○自分との共通点や相違点</p> <p>○自分の考えの広がりや深まり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他者との交流を経て、五月と十二月の場面を表す一言を決めさせ、それを項目に書くように指示する。 決めた理由や題名にこめた思い、作者の思いまで書けている児童は積極的に称賛する。 自分の学びの振り返りのほかに、他者との交流の振り返りも書かせるようにする。

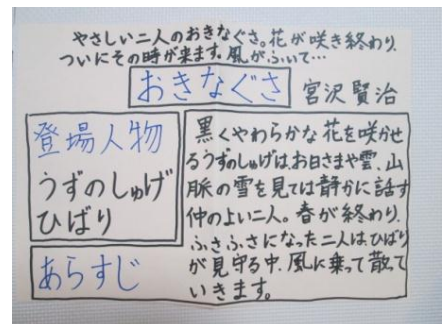
(3) 成果と課題

① 成果

- 「学び合い」の進め方を提示した結果、児童がどのように他者と「聴き合い」を行えばよいのかが理解でき、積極的な「学び合い」に繋がることができた。結果として、様々な考えが交流され、より主体的な学びへと発展することができた。

② 課題

- 「聴き合う」ことで、自分の考えをもち、互いの意見と共有することはできていたが、自分の考えで満足してしまい、そこから、さらに考えを「深め合う」ところまでに至らなかった。他者の意見から自分の考えを発展させるための具体的な手立てを講じ、支援していかなければならない。



3 小学校第3学年の事例（教材名「ちいちゃんのかげおくり」）

(1) 研究主題との関わり

- ① 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」が効果的に学習計画に取り入れるための問題解決型学習における単元計画の作成

《問題解決型学習の流れ》

1	本時の見通しをもつ
2	範囲を音読
3	心がずきんと響いた理由を考える 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」
4	考えた理由の発表
5	学習の振り返り

- ② 児童生徒の学習意欲を喚起するための単元を貫く言語活動の設定

本単元では「C 読むこと」における指導事項「ウ」「オ」、言語活動例「エ」を受けて、本単元では次のような言語活動を設定した。

心がずきんとひびいた「ずきんブック」を作ろう

戦争と平和について書かれた物語を読み、「ずきんブック」を書いて感想を交流する活動である。本単元では、教科書教材で獲得した読みの力を、自分が選んだ戦争に関する本「マイブック」（例：「かわいそうなぞう」「えんぴつびな」等）で活用するABワンセット方式で学習を進めていく。そのため、教科書教材の学習で行った評価をすぐ「マイブック」の学習場面で生かすことができるようにする。

《A、Bワンセット方式における学習課題》（A…教科書課題 B…マイブック課題）

第一次	第二次	第三次
<ul style="list-style-type: none"> ・関連図書紹介 ・「ずきんブック」で紹介するという課題の設定 ・「マイブック」の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書教材で想像した情景を色で表す。 ・教科書教材でずきんと心に響く叙述を見つける。 ・ずきんと心に響く理由を書く。 ※紹介したい自分の考えを交流しながら明らかにしていく。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「マイブック」で想像した情景を色で表す。 ・「マイブック」でずきんと心に響く叙述を見つける。 ・ずきんと心に響く理由を書く。 ※教科書教材の読みを「マイブック」に生かし、紹介の準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争と平和の物語を読んだ感想を書く。 ・「ずきんブック」を完成させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・「ずきんブック」で自分の心に響いた部分や戦争と平和について感じたことや考えたことを紹介する。 		

- ③ 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を効果的に行うための指導法の工夫

小学校6年の実践でも行っていたように、学習計画表と「学び合い」の進め方を掲示し、どの児童も毎時間の見通しを持って授業に臨み、「聴き合い」の仕方が分かるよう配慮した。また、付箋を用意してずきんとした叙述の隣りに理由を書いて貼れるようにすることで、自分の考えを整理でき、他の児童も聴きやすくなると考えた。

(2) 本時の学習指導

- ① 目標

「ずきんブック」を作るために「ちいちゃんのかげおくり」を読み、ずきんと響いた理由を自分なりにまとめることができる。

② 評価規準

「ずきんブック」を作るため「ちいちゃんのかげおくり」の叙述から、場面の移り変わりや人物の気持ちの変化を想像して読み、自分の心がずきんと響く理由を自分なりの言葉でまとめている。

③ 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1 単元のゴールを確認し、本時の見通しをもつ。	・本時の課題の確認	○交流の必要感をもてるように、「理由がまだはっきりしていない」といった各自のもつ読みの課題を確かめる。
ちいちゃんのかげおくりを読んで心がずきんとひびいた理由を書こう。		
2 本文を音読する。(3分間自分が引用すると決めた場面を音読する。)	・音読の仕方	○登場人物の気持ちに寄り添い音読できるようにする。
3 付箋に心にずきんと響いた理由を書く。	・付箋の書き方	○各自付箋を用意し、線を引いた場所に貼れるようにし、自分の考えをまとめられるようにする。
4 「ずきんブック」を作るために心がずきんと響いた理由を聴き合う。	・「学び合い」の仕方	○考えの共通点や相違点に気付けるように他者の考えを聴き合えるようにする。
○「聴き合い」の仕方		○思考を深められるようにするため、整理したり焦点化したりする発問をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・3人で聴き合う。 ・この考え方を聞いて〇〇さんはどう思う？ ・どうしてそう思ったの？くわしく教えて。 ・ここをどう考えたの？ ・ここはにているね。 ・その理由いいね。その気持ち分かるな。 		<p>評価場面</p> <p>〈具体の評価規準〉 エの②</p> <p>〈評価方法〉 発表の様子や態度の観察</p> <p>ずきんブック(ワークシート)の記述内容</p> <p>〈手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由を書けている児童には、付け足しや文章の見直しをするよう助言をする。 ・なかなか書けない児童には線を引いた部分のどの言葉に一番ずきんときたのかを聞き、その発言を書くように促す。
5 「ずきんブック」に心がずきんと響いた理由を書く。	・ワークシートの書き方	○具体的な書き方を例示することで、理由を考えられるようにする。
6 理由を発表する。	・発表の仕方	○学び合いのよさを感じられるように、他者との交流の振り返りもできるようにする。
7 学習を振り返り、次時のめあてを確認する。	・自分との共通点や相違点	○「聴き合い」の方法が完全には定着していなかったため、振り返りを行う時間がなくなりました。
	・まとめの仕方	

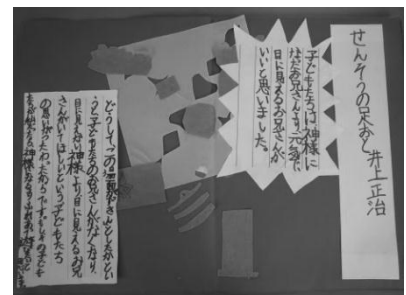
(3) 成果と課題

① 成果

- ・「聴き合い」の時間を設け、他の児童に気軽に意見を求めることで、自力解決が難しい児童にとっては、その考えが基となり理由を考えるきっかけとなり意欲向上につながった。

② 課題

- ・前事例でも課題となった自分の考えを「深め合う」ところまでは至らなかった。その時々アドバイスの仕方を児童に分かりやすく示し、「聴き合い」の時間をより多く確保して定着を図り、「深め合い」に繋げていきたい。
- ・「聴き合い」をさらに深めるための適切な課題設定を設けることが必要である。



V 実践のまとめと考察

1 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」活動が効果的に学習計画に取り入れていくための問題解決型学習における単元計画の作成

グループを作って学び合う活動を多く取り入れることで、自分の考えがより深まっていく。授業の中では自力解決の場面で取り入れることができる。以下の点は取り入れる場合のポイントである。

(1) 学び合いにより気付かせたい事項を明確にし、十分な知識を与える。

ただ「聴き合いなさい」では何も身に付かない。考えが思い浮かぶような知識をしっかりと身に付けさせておく。そこから出てきた自分の考えを他者に説明することでより深い考えにつながっていく。

(2) 自力解決の場の工夫

自力解決の場面からグループにする工夫もある。自力解決の場面から周りの児童と交流できるようにしておくと、その流れで学び合いが始まっていく。どの場面で取り入れるかは、教師の判断に委ねることになるが、何を指導するのか明確にしておく必要がある。

2 児童生徒の学習意欲を喚起するための、適切な単元を貫く言語活動の設定

言語活動は国語の能力を育成するために指導事項を指導する際の手段である。そのために、学習指導要領においては、目標が能力・態度で構成されており、内容の(1)が指導事項、(2)が言語活動例となっている。

言語活動が目的化してしまうと、いわゆる「活動あって学びなし」の状態に陥ってしまい、読むことの内容を、児童に明確に身に付けさせることができない。「手段」としての言語活動をどのように設定するかが重要となる。

本研究では適切な単元を貫く言語活動を設定するために、指導事項を研究部で検討し、実践に繋げていった。指導事項をふまえた言語活動を設定したことで、適切な言語活動を指導に生かすことができた。

3 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」を効果的に行うための指導法の工夫

(1) 掲示の工夫

先行授業では「聴き合い」の流れの掲示を用意した。見通しを持つことにより児童も積極的に「聴き合い」に参加できる。2回目の授業では流れの掲示以外に、「聴く」と「聞く」の違い、聴き合う時のフレーズを掲示した。これらの成果として、児童生徒一人一人がどのように聴き合ったらいいのかが理解でき、最初の一言を発する事が容易となった。3回目の授業では今までのことをふまえて授業を行った。

「学び合い」の掲示を用意することで理解しながら「聴き合い」を進めることができた。また、いつでも流れを確認できることで、「学び合い」はどの教科でも取り組めるようになった。

(2) グループの工夫

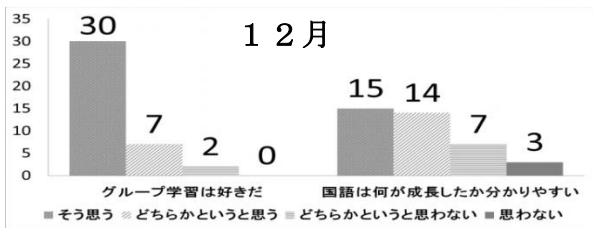
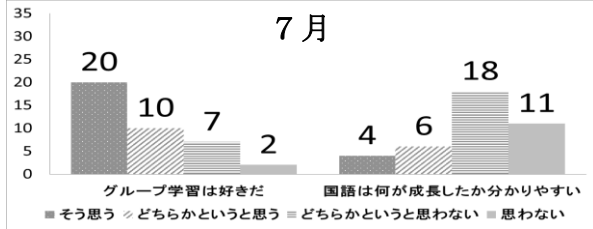
グループを意図的に組み、一人は理解できてリードできる児童を配置した。一人が授業の内容を理解し、だんだんとその考えがグループに波及していく。最終的にはそのような工夫はなくても「学び合い」は成立していくが、導入期ではこのような工夫をすることで成功体験を積ませることができることが分かった。

4 児童の変容

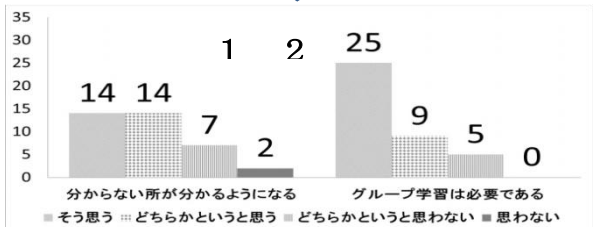
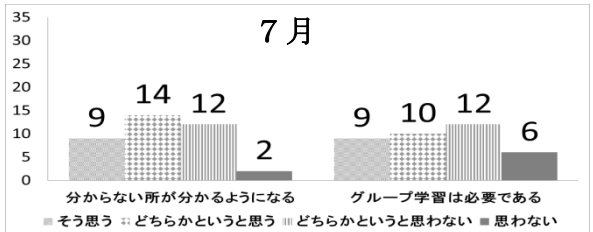
《国語科に対する児童の意識調査》

小学校第6学年

《国語アンケートの調査》

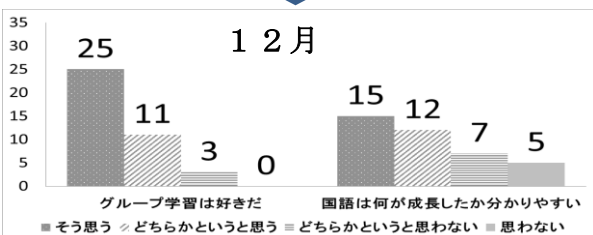
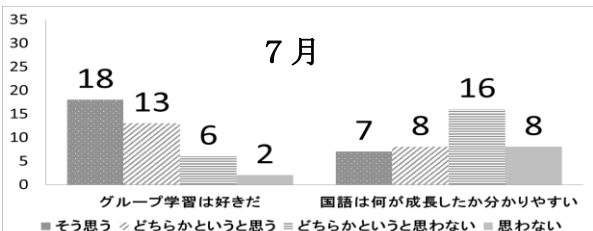


《グループ学習についての調査》



小学校第3学年

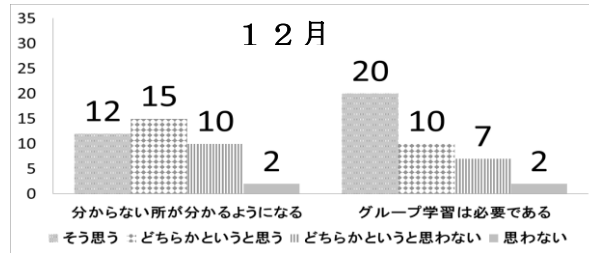
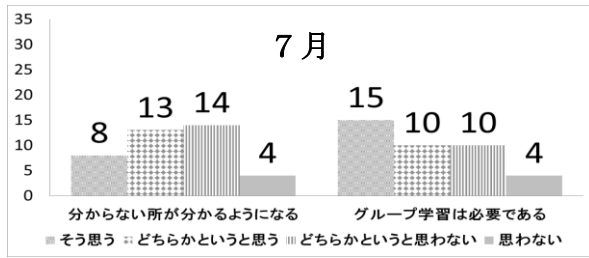
《国語アンケートの調査》



7月と12月に国語科における2種類のアンケートを実施した。7月の段階では、グループ学習と物語文を読むことにおいて「好き」という回答が多かった。国語は何が成長したかわかりやすいか、という質問には、「どちらかというと思う」「そう思わない」という回答が多くみられた。もう一つのグループ学習についてのアンケートでは、グループ学習における必要性において「どちらかというと思わない」「必要ない」と回答する児童も多くみられた。理由としては、グループ学習は他者と一緒に考えることができるし、課題が解決出来れば好きな話ができるイメージがあるので「好き」という回答が増えたのではないかと考えた。しかし、質問に回答していくにつれ、グループ学習が「好き」と回答した児童の中にグループ学習の必要性に疑問をもつ児童が現れた。

研究員の研究を進めていく中で、12月に再び同一のアンケートを実施した。その結果、どちらのアンケートでも、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が増えた。特に「国語は何が成長したか分かりやすい」という項目で「そう思う」が6年生4人→15人、3年生7人→15人、反対に「そう思わない」が6年生11人→5人、3年生8人→5人に減った。これは、単元を貫く言語活動を設定したことで課題が明確になり、その課題を解決し作品作りに生かせることで、自分にどのような力が身についたのか実感できたからではないかと考える。グループ学習においては、「聴き合い」の掲示をすることで流れや聴き方の共通理解が図れ、十分な学び合いをすることができた。

《グループ学習についての調査》



学び合いの中で自分の分からなかった部分分かるようになる体験を多く積んだ結果、グループ学習の必要性について「思わない」に回答した児童が6年生6人→0人、3年生4人→2人になった。また、「そう思う」では6年生9人→25人、3年生15人→20人にまで増加した。

以上のことから、付けたい力を見極め、「学び合い」を通して指導していくことで、主体的な学びに繋げることができた。また、方法を提示し、見通しを持たせることで、安心して課題に取り組める雰囲気を作ることができた。

VI 研究のまとめと今後の課題

1 研究仮説について

児童生徒同士による、「聴き合い」の活動は3つの実践において効果的に行うことができ、意欲の向上が見られた。また、期待された「学び合い」の活動にも発展させることができた。しかし、仮説にあった、「深め合い」がどの段階で「深め合い」になったといえるのか、その把握が難しかった。「深め合い」の定義や児童生徒の到達段階についてももっとよく話し合う必要がある。

2 「聴き合い」「学び合い」「深め合い」による成果

(1) 読み取りが苦手な児童も、意欲的に取り組むことができた。

授業に「聴き合い」を取り入れることで、読み取りに苦手意識を感じている児童でも、意欲的に取り組む姿勢が見られた。「分からない」「自信がない」と感じていた児童も、互いに聴き合えることで、安心して課題に取り組んでいた。また、聴き合う際の約束を作ってあげることで、積極的に聴き合う関係を作ることができた。さらに、読み取りが得意な児童は、自分の考えをもつだけでなく、理由や根拠を示して相手に伝えるにはどうしたらよいかと考えたり、教科書の本文を丁寧に読み返したりするなど、積極的に読み取ろうとする姿が見られた。「聴き合い」という交流の場をもつことで、読み取りが得意な児童も苦手な児童にも、意欲的に課題に取り組む姿勢をはぐくめた。

(2) 自己と他者を比べることで、自分の考えを深めることができた。

「聴き合い」をすることで、自然と互いに学び合う関係が生まれた。自己と他者の考えを比較した結果、自分の考えが正しいと思う児童もいれば、他者の考えに賛同する児童もいた。また、自己と他者の考えを比較することで、新たな価値や考えに気付くといった場面も見られた。最終的に自分の考えを主張した児童も、「自分の考えをもつ」→「互いに聴き合い、様々な意見を比較する」→「比較した結果、やはり自分の考えが正しいと考える」という思考の経路を辿るため、「聴き合い」なが

ら学び合う活動により、自分の考えを深めることができた。

3 問題解決型学習と「学び合い」の関わりと効果

(1) 児童生徒が主体的に学習に取り組むことができた。

研究員の共通テーマである「言語活動を充実させ、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成」に基づき、本研究部では問題解決型学習が有効だろうと考え、単元計画を作成し実践した。問題に対して児童の多様な考えが予想されるため、児童生徒は身近な席やグループで積極的に聴き合おうとしていた。また、単元を貫く言語活動を設定することで、「物語を読み取る必要性」を児童生徒に与えることができ、より主体的に学習に取り組ませることができた。

(2) 発達段階に応じた様々な物語教材で単元計画を作成することができた。

学年が上がるにつれて児童生徒の言語能力は向上する。授業で扱う物語教材も内容が難しいものになってくる。児童生徒の発達段階と単元の指導事項に合わせて課題を設定することで、様々な物語教材で単元計画を作成することができた。また教師は物語文だけではなく、説明的文章や評論などの様々な文章でも単元計画を作ることが必要である。どの文章においても適切に課題を設定し、互いに聴き合う活動を充実させ、より質の高い学びに発展できるよう、単元計画の工夫が求められる。

4 今後の課題

本研究部は、「学び合い」を取り入れた問題解決型学習を行うことで、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成を目指して研究を行ってきた。授業の実践において、読み取りが苦手な児童も意欲的に参加している姿から効果が得られた。また、発達段階に応じて、教材より課題設定を工夫する必要があることも分かった。教師が児童生徒の考えをつなぎ、より質の高い価値に気付かせるなど指導法を高めることで、より「学び合い」の効果が生まれることが期待される。

今後の課題として、今回の取組みにおいては、児童生徒の学力がどれほど向上したのかどうかが見極められないという点が挙げられる。例えば、テストにおける読解問題でクラスの平均点が上がったとしても、それが「学び合い」における効果なのかどうかは判断が付きにくい。そのため、今後は児童生徒の読む力のレディネス調査や、実践における過程の読む力の変容の記録など、多様な検証方法で児童生徒の能力の変容を比べ、指導の効果を見極めていく必要がある。

《参考文献》

実践ナビ！言語活動のススメ モデル30	樺山敏郎	明治図書
教師たちの挑戦…授業を創る、学びが変わる	佐藤学	小学館
学校の挑戦…学びの共同体を創る	佐藤学	小学館
教師花伝書—専門家として成長するために—	佐藤学	小学館
学校を変える…浜之郷小学校の5年間	佐藤学	小学館
小学校国語科 学習指導案パーフェクトガイド	水戸部修治編著	明治図書